



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペり日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/19 (月)	+ 500	+ 4,800	+ 5,300	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行 (物連10年)	国債補完供給 + 18,300		米：景気先行指標総合指数 (7月)
8/20 (火)	+ 200	+ 2,000	+ 2,200	国庫短期証券発行償還 (1Y)			欧：ユーロ圏CPI (7月)
8/21 (水)	+ 100	▲ 17,000	▲ 16,900	国債発行 (20年)	共通担保 ▲ 8,000	社債等買入 + 500	日：貿易収支 (7月) 米：FOMC議事要旨 (7月30日~31日開催分)
8/22 (木)	+ 100	+ 1,000	+ 1,100				米：ジャクソンホール会合 (8月22日~24日) 米：製造業・サービス業PMI (8月) 欧：ユーロ圏製造業・サービス業PMI (8月) 欧：ユーロ圏消費者信頼感指数 (8月)
8/23 (金)	トン	▲ 6,000	▲ 6,000	流動性供給			日：全国CPI (7月) 日：閉会中審査 (衆参両院)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3,900億円増加の542兆4,800億円から始まった。その後、源泉税揚げ、年金の払い等の要因により、16日は549兆3,800億円 (速報) まで増加し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビットサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3M物が主に0.228%~0.350%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、23日に全国CPI (7月)、衆参両院での閉会中審査の開催。海外では20日にユーロ圏CPI (7月)、21日にFOMC議事要旨 (7月30日・31日開催分) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.22 ~ 0.228
1M	0.30 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.45
3M	0.30 ~ 0.45
6M	0.45 ~ 0.65

<レポ>

足許GCは週を通して+0.22%~+0.24%のレンジを中心に推移した。短国の発行があった週末も水準に変化は見られなかった。SC取引は2年450~462回債、5年149~170回債、10年350~375回債、20年180~189回債、30年65~83回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50

<CP>

今週の入札発行総額は約7,400億円で、週間償還額の7,200億円を上回った。発行残高は、先週末時点の24兆2,385億円から8月15日時点で24兆2,643億円に増加した。発行市場は小売業、卸売業、建設業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%超から0.30%台後半での出合いとなった。

来週の償還額は、9,500億円となっている。発行市場は、夏季休暇を終えた企業による調達が再開し、マーケットは活況になると予想する。発行レートは、1M物では0.25%超での出合い、3M超の案件については0.3%台後半~0.40%近辺での出合いが散見されるであろう。

<TDB>

16日の3M (1250回債) の入札は、最高落札利回り0.1183% (前回債0.0973%)、平均落札利回り0.1119% (前回債0.0859%) となった。来週の入札は、19日に1Y、23日に3Mが予定されている。